その背景には、欧州全体の競争力向上のためには、域内競争で消耗し、欧州が弱体化しないよう、EU レベルでの効率のよい空間バランスを追求する必要性が高まったことがある。そこで、EU は、ESDP を通じて、欧州の空間バランスを定常的に観察し、共有できる現状分析と政策展望を提示した。ただし、ESDP は、欧州における均衡ある持続可能な発展の達成というEU の目的に基づく法的拘束力のない政策的枠組みという位置づけにある。

2. ESDP における欧州の空間構造の捉え方3

ESDP の空間計画のコンセプトは多極分散型開発(Polycentric Development) である。その背景には、欧州の空間構造を核（Core）と外縁（Periphery）として概念化する考え方がある。

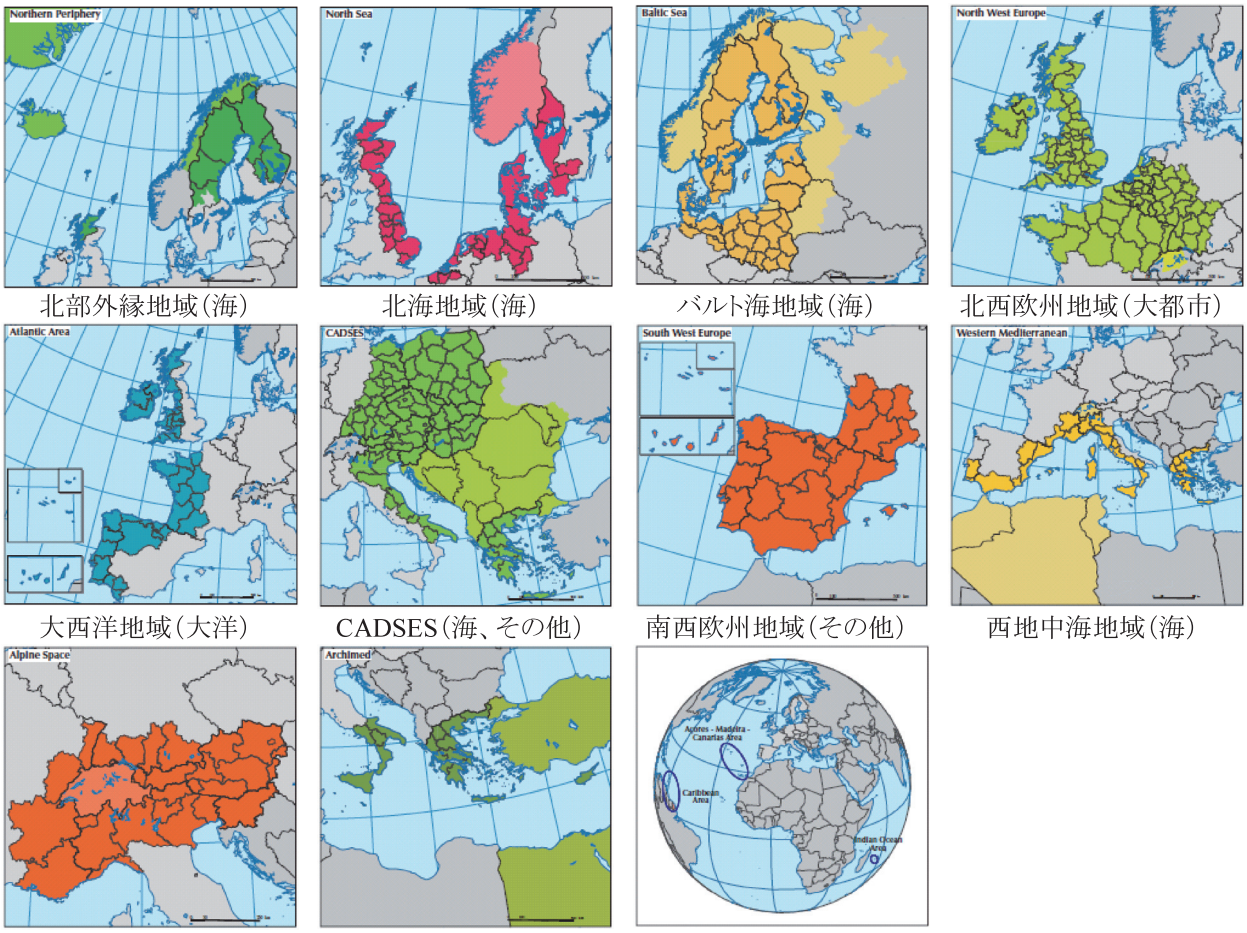
3. ESDP とInterreg

核と外縁との連結は、国境を越えた連携を促進する共同体政策のプログラムInterreg によって行われる。これは欧州地域開発基金の資金提供を受けて実施される。

Interreg における国境を越えた連携の形態としては、Interreg 策定当初から存在する国境間協力（Cross-border Cooperation ）と、1995 年にInterregIIC において位置づけられた協力越境協力（Transnational Cooperation ）がある。前者は国境の両側の地方自治体間の協力であり、後者は地理的に連担する広域協力エリアに属する地域間の協力である。

4. 越境協力エリアの地域区分

Interreg 等の越境協力エリアは、地理的類似性と相互関係の発展度合いや、加盟国間の交渉の結果に基づいて設定されている。越境協力エリアの一体性をもたらす結合要素としては、大洋、海、山岳、大都市などがあるが、多くは「海」を結合要素としている（図 0－11）。



北部外縁地域（海）　北海地域（海）　バルト海地域（海）　北西欧州地域（大都市）

大西洋地域（大洋）　CADSES（海、その他）　南西欧州地域（その他）　西地中海地域（海）

アルプス地域（山岳）　Archi-Med（海）　超外縁地域（その他）

※括弧内は各地域の結合要素を表す。

図 0－１１　InterregIIIBにおける越境協力エリアと結合要素